

ご存じですか！文化財

23

「説経節」

初代

若松辰太夫供養塔

市指定有形文化財
平成4年3月16日指定



問合せ
騎西教育事務所
(0480)73・7610



所在地 外田ヶ谷796
宝性寺

今回紹介する文化財は、宝性寺内にある、説経節 初代若松辰太夫供養塔です。説経節とは江戸から大正期にかけて流行した三味線や人形を使った語り芸の一種です。

明治のはじめ、「説経節の名人」と評されたのが若松辰太夫と漆原四郎次(1823〜1895)で、わたしの曾祖父にあたる人物です。

諏訪仙之助(五代目薩摩若太夫)を師匠とし、「薩摩辰太夫」を名乗りました。師匠とともに奥州白河(福島県白河市)で行った公演のおり、元会津武士から薩摩は敵だと激しく抗議され、以後

姓を「若松」に改め、「若松辰太夫」と名乗るようになったそうです。四郎次の芸風は声が素晴らしく、作中の人物を生き生きと浮かび上がらせるような語り方であったといえます。その芸風に魅了された浪速亭駒吉は外田ヶ谷にとどまり、四郎次に学んで「浪速節」を創作したといわれています。隠居した四郎次は、「日暮竜」と名乗り、多くの弟子を養成しました。供養塔には、北埼玉郡から大里郡・栃木・群馬・東京に及ぶ約1,000人もの関係者の名が刻まれています。



若松辰太夫供養塔

紹介者 漆原暉良さん(外田ヶ谷)